

河川工作物ワーキンググループ経過報告

平成18年度の第1回会合における検討、了承事項。

1 平成18年度影響対象河川について

アイドマリ川、オショロッコ川、知徒来川、羅臼川、ショウジ川、チエンベツ川

2 河川工作物の改良工法について

平成17年度の影響評価において、「改良の検討を行うことが適当」と評価した河川工作物10基についての改良工法選択に当たっての基本的な考え方。

(1) 北海道森林管理局

ア 対象河川工作物

イワウベツ川5基（赤イ川3基、ピリカベツ川2基）

イ 工法

河口部におけるサケ科魚類の捕獲及び希少鳥類への影響に配慮し、工期の制約、治山ダム機能の維持、下流域の保全等に対応できる工法として、階段式の魚道を検討。

なお、ピリカベツ川の2基については、既設魚道の改良を念頭に置くが、改良効果が期待できない場合には、新設の魚道を検討。

(2) 北海道

ア 対象河川工作物

ルシャ川2基、サシルイ川2基。

イ 工法

(ア) ルシャ川

治山ダム機能を低下させないことを基本に、河口部におけるサケ科魚類の捕獲及び希少鳥類への影響に配慮して、ダム天端の切り欠き及び切り下げを実施することとし、詳細な構造等を検討。

(イ) サシルイ川

治山ダム機能を低下させないことを基本に、河口部におけるサケ科魚類の捕獲及び希少鳥類への影響に配慮して、既設魚道工を改良することとし、詳細な構造等について、さらに調査、検討。

(3) 斜里町

ア 対象河川工作物

イワウベツ川1基。

イ 工法

河口部におけるサケ科魚類の捕獲及び希少鳥類への影響を回避することを基本とし、①階段式の魚道②工作物を撤去し導水管を埋没③工作物を撤去し導水管を水面上に渡河、のいずれか3案を検討。

なお、上記の基本的考え方の下、WGでの委員からの助言を踏まえて、各設置者が具体的な構造等の詳細を検討し、改良工事に着手。

3 モニタリングについて

改良後の遡上状況を把握し、改良効果を検証するためのモニタリングを実施。

4 平成18年度WGのスケジュール

○第1回（6月15日）

- ・上記事項について検討（実施済み）

○第2回（9月下旬（19～21日に確定））

- ・平成18年度影響評価対象河川の現地検討

○第3回（11月上旬）

- ・平成18年度影響評価結果の検討

○第4回（1月下旬）

- ・河川工作物の改良工法の検討（平成18年度評価分）